

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.5
1 音環境				3.0	0.15	2.4	1.00		2.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.0	0.40	2.7	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				3.7	0.35	3.8	1.00		3.7
2.1 室温制御				3.2	0.50	3.4	0.50		
1 室温		窓システム:SC=0.58, U=2.96, 外壁・その他:U=1.15		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式		一部診療室に天井放射空調を採用		5.0	0.30	5.0	0.30		
3 光・視環境				2.9	0.25	3.6	1.00		3.1
3.1 昼光利用				1.8	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		昼光率:1.25%以上である。		1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		共用部:庇及びカーテン採用。病室部:庇及びカーテン採用。		4.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00		4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.63	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆を採用し、低VOCの建材も全面的に採用している。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.38	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.9
1 機能性				4.0	0.40	4.8	1.00		4.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		病室:個室10㎡以上確保、多床室1床あたり8㎡以上確保。		-	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.00	-	-		
3 バリアフリー計画				5.0	0.30	4.5	0.40		
1.2 心理性・快適性				-	-	4.0	0.50		
1 広さ感・景観		病室の天井高を2500以上確保		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		農産物を全体のテーマとした、迷わない病院に求められるサイン計画を農産物のカラーを利用した、作物や果実の形状の間接照明を計画。		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		風除室の1次扉と2次扉が同時に開かないよう1m以上距離を確保。外部に露出する金属部材にアルミ材・ステンレス材を採用。		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃資材保管用・洗濯機設置用・廃棄物用のスペースを確保		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30	-	-		3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数を1.25としている。		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1床:床長尺塩ビシート2.0,壁EP(ガラス繊維入りPBt12.5+12.5),天井ロックウール化粧吸音板t12.5(PBt12.5+12.5)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバリウムダクトを採用している		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		熱源の二重化を行い、吊配管は防振対策を実施している。		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型便器の採用や汚水が貯留可能な計画としている。		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備を設置し、受変電設備の二重化を図り、無停電電源設備も設置している。		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		光ケーブル、PHS網等通信手段の多様化を図り、精密機械(MDF等)の地下空間への設置を避けている。		4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	3.8	1.00	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	共用部(診療室)3.9m以上、病室3.9m以上	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率: 共用部0.1以上0.3未満、病室部0.1以上0.3未満	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		共用部3500N/m ² 、病室部1800N/m ²	4.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物高さを抑え、植栽による良好な環境を形成し、既存樹木を保存している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.8	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		トップライトによる採光を計画。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			2.4	0.50	-	-	2.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加え節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のティール及びOA707も採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材種別が4つ以上ある。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=92%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場・駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保し、構内に循環バスルートの設置を計画している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	